II 基準ごとの自己評価

基準1 教育の内部質保証システム

<p>評価の視点</p> <p>【重点評価項目】</p> <p>1-1 教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）が整備され、機能していること。</p>			
<p>【重点評価項目】</p> <p>観点1-1-① 教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されているか。</p>			
<p>【留意点】</p> <p>○ 教育の活動を中心とした学校の教育研究活動の総合的な状況についての自己点検・評価の実施方針、実施体制、実施項目を分析するための観点であり、重点評価項目として位置付けている。（改善への取組については1-1-④で分析する。）</p> <p>○ 定期的に行うということは、7年以内ごとに実施する大学改革支援・学位授与機構（以下、「機構」という。）の機関別認証評価に対応した自己点検・評価以外に、計画的にモニタリング※や自己点検・評価を実施していることについて分析すること。</p> <p>※ 「モニタリング」として、教育プログラムの実施者がプログラムの現状について、定量的及び定性的なデータや情報を定期的かつ体系的に把握・追跡し、継続的に情報共有を行う作業をいう。</p> <p>○ 実施方針とは、趣旨、実施時期、実施方法、評価結果の外部検証等が定められている学校内の規定を想定している。</p> <p>○ 実施体制には、委員会や担当部署のほか、自己点検・評価における責任の所在を明記していること。なお、実施体制の「組織図」等があれば提示すること。</p> <p>○ 自己点検・評価の基準・項目には、機構の高等専門学校評価基準を活用することや、必要に応じて独自の評価の項目を設定している場合も想定される。</p> <p>○ 実施体制、評価の基準・項目等は、実施方針の中で一体的に策定している場合も想定される。</p>			
<p>関係法令 (法)第109条 (施)第166条 (設)第2条</p>			
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■ 満たしていると判断する</p>			
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) 学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針を定めているか。</p> <p>■ 定めている</p>	◇実施の方針が明示されている規程等		
	資料1-1-1-(1)-01「自己点検評価の基本方針」	教育活動を中心とした本校の活動の総合的な状況は、平成31年4月24日に制定した「鶴岡工業高等専門学校における自己点検評価の基本方針」に基づいて自己点検・評価を実施している。	
<p>(2) (1)の方針において、自己点検・評価の実施体制（委員会等）を整備しているか。</p> <p>■ 整備している</p>	◇実施体制等がわかる資料（組織構成図、関連規程等）		
	資料1-1-1-(1)-01「自己点検評価の基本方針」	自己点検・評価委員会規定に定める委員が、自己点検・評価の基本方針に定める実施体制に基づき点検を行う。また、外部評価として、鶴岡工業高等専門学校運営協議会を設置しており、その評価も取り入れた実施を行っている。	再掲
	資料1-1-1-(2)-01「自己点検・評価委員会規程」		
資料1-1-1-(2)-02「鶴岡工業高等専門学校運営協議会規程」			
<p>(3) (1)の方針において、若しくは同方針に基づいて、自己点検・評価の基準・項目等を設定しているか。</p> <p>■ 設定している</p>	◇自己点検・評価の基準・項目等がわかる資料（関連規程等）		
	資料1-1-1-(3)-01「自己点検・評価表」 資料1-1-1-(1)-01「自己点検評価の基本方針」	自己点検・評価表に点検項目を定めている。各点検項目について関係担当部署(各種委員会等)からの報告を基に現状確認を行った上で、基本方針に定める5段階評価を行う。その結果を踏まえて次年度改善・見直し予定事項として、関係担当部署へのフィードバックを行う。	再掲

【重点評価項目】
 観点1-1-② 内部質保証システムに基づき、根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。

【留意点】
 ○ 根拠となるデータや資料等とは、教育の状況について自己点検・評価を行うに当たり必要な教育活動に関する基礎的な資料のことで、本評価書の右欄に明示された各種資料を想定している。自己点検・評価に活用できるように体系的に整理しているかを分析すること。より体系的に実施するため、データブック等の策定や、IR（インスティテューショナル・リサーチ）活動として実施している場合も考えられる。
 ○ 定期的に行うということは、7年以内ごとに実施する大学改革支援・学位授与機構（以下、「機構」という。）の機関別認証評価に対応した自己点検・評価以外に、計画的にモニタリング※や自己点検・評価を実施していることについて分析すること。
 ※ 「モニタリング」として、教育プログラムの実施者がプログラムの現状について、定量的及び定性的なデータや情報を定期的かつ体系的に把握・追跡し、継続的に情報共有を行う作業をいう。（1-1-①の留意点の再掲。）
 ○ 設定した自己点検・評価の基準・項目に基づいて、点検（分析）・評価されていること。（1-1-①(3)と関連。）

関係法令 (法)第109条 (施)第166条 (設)第2条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）
 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
 ■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 根拠となるデータや資料等を定期的に収集・蓄積しているか。 ■ 収集・蓄積している	◇収集・蓄積状況がわかる資料 資料1-1-2-(1)-01 「各委員会の議事録電子ファイル保存例を示す資料」 資料1-1-2-(1)-02 「保存資料保管の例を示す資料」 資料1-1-2-(1)-03 「学業成績評価に係る資料の保存及び提出要領を示す資料」	教育活動のデータ（各種委員会の議事録や資料、入試データ、教員の教育活動に関する資料、成績評価、定期試験、授業アンケートなど）について、電子化できるものは電子化してサーバーに保管し、電子化が難しい印刷物は所掌係に保管している。また、データの収集においては、「資料1-1-2-(1)-03 学業成績評価に係る資料の保存及び提出要領について」のように、学内にて資料提出の要項や提出期日などを定め、定期的な蓄積に努めている。	
	◇担当組織、責任体制がわかる資料 資料1-1-1-(1)-01 「自己点検評価の基本方針」 資料1-1-1-(2)-01 「自己点検・評価委員会規程」 資料1-1-2-(1)-04 「学内PDCAサイクルを示す資料」 資料1-1-2-(1)-05 「将来構想・戦略会議規程」 資料1-1-2-(1)-06 「運営会議規程」 資料1-1-2-(1)-07 「教務委員会規程」 資料1-1-2-(1)-08 「教育点検委員会規程」 資料1-1-2-(1)-09 「教育改善委員会規程」 資料1-1-2-(1)-10 「教育改革FD委員会規程」	教育活動の定常的なモニタリングはPDCAサイクル図に示す組織体制にて行っており、毎年度末に、前年度の問題点に対する当該年度での活動内容及び次年度で解決すべき問題点を、教育点検委員会で点検し、教育改善委員会に改善依頼し、教育改善委員会は改善案を教務委員会に提出する。教務委員会で審議後に上申し、将来構想・戦略会議及び運営会議は、その改善計画に対する許可を行う。自己点検・評価委員会はこれらの定常的なモニタリングの活動内容を踏まえて、各年度の取り組みについて、総括的に自己点検・評価を実施する。	再掲 再掲

<p>(2) 自己点検・評価を定期的実施しているか。</p> <p>■ 実施している</p>	<p>◇自己点検・評価報告書等、実施状況がわかる資料（何年ごとに実施しているかがわかる資料も含む。）</p> <p>資料1-1-1-(1)-01 「自己点検評価の基本方針」</p> <p>資料1-1-2-(1)-04 「学内PDCAサイクルを示す資料」</p> <p>資料1-1-2-(2)-01 「自己点検・評価実施計画を示す資料」</p> <p>資料1-1-2-(2)-02 「自己点検・評価報告書」</p> <p>資料1-1-2-(2)-03 「【議事要旨】自己点検・評価委員会2019年度1」</p> <p>資料1-1-2-(2)-04 「【議事要旨】自己点検・評価委員会2019年度2」</p> <p>◆何年ごとに実施しているかを明確にしつつ、現在の実施頻度が適切かどうか、データや資料を活用して行われているかについて、資料を基に記述する。</p> <p>資料1-1-1-(1)-01 「自己点検評価の基本方針」</p>	<p>自己点検・評価に関する実施基本方針に定める通り、各年度自己点検・評価を行っている。年度当初に、前年度の問題点を踏まえて、改善計画を立て、学内PDCAサイクルを通して改善を図る。年度末に、外部評価として鶴岡工業高等専門学校運営協議会による点検・評価も交えて、自己点検・評価委員会による自己評価を実施している。また、不定期に自己点検・評価委員会を実施し、学内自己点検・評価体制の見直しも継続して行っている。</p> <p>赤枠内参照</p> <p>赤枠内参照</p> <p>平成31年度に「鶴岡工業高等専門学校自己点検評価の基本方針」が制定され、これに基づき毎年、自己点検・評価を行っている。学内PDCAサイクルに基づく定常的なモニタリングや独立行政法人国立高等専門学校機構中期計画及び年度計画への対応も鑑みて、各年度実施することで継続的かつ迅速な改善を行うことを目標としている。</p>	<p></p> <p>再掲</p> <p>再掲</p> <p></p> <p></p> <p></p> <p>再掲</p>
<p>(3) (2)の結果を公表しているか。</p> <p>■ 公表している</p>	<p>◇公表状況がわかる資料（ウェブサイトのアドレスの明示でも可。）</p> <p>https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/annai/gaibu/unnei/</p> <p>https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/annai/gaibu/jiko/</p>	<p>鶴岡高専 外部評価（運営協議会）報告サイト</p> <p>鶴岡高専 自己点検・評価報告サイト</p>	<p></p> <p></p>

【重点評価項目】
観点1-1-③ 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。

【留意点】

- 学校の構成員及び学外関係者の意見を聴取する方法、内容、実施状況等についての分析を含め、聴取した意見がどのような形で教育の状況に関する自己点検・評価に反映されているか分析すること。
- 特に学外関係者からの意見聴取は、準備等に時間がかかることが想定されるため、計画的な実施が望まれる。
- 「第三者評価」とは、評価対象機関とは独立した第三者組織によって選定された評価者・評価項目等によって行われる評価を指す。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 自己点検・評価の実施に際して、次の各者の意見を反映するようになっているか。（該当する選択肢にチェック■する。）	◇各意見聴取の実施状況がわかる資料（実施方法、回数、意見内容の例、アンケート結果集計表等。）		
■ 教員	資料1-1-3-(1)-01「運営体制図」	教職員は、教員会議ほか運営体制図に示す各種委員会において学校運営に対する意見を言う機会が数多く存在する。また、不定期ではあるが校長自らが教職員へのアンケートを行っている。在校生に対する授業や学習教育目標および学校施設に関するアンケート、卒業時アンケートは毎年実施し、卒業生に対するアンケート、就職先企業への関するアンケートは適宜実施している。有識者を交えた外部評価として運営協議会を毎年実施している。保護者に対しては、保護者懇談会での個別面談のほか、授業参観・学校見学会時にアンケート聴取を行っている。本校ホームページ上に意見箱(https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/iken-2/)を設け、常時意見聴取を行える環境を整備している。	
■ 職員	資料1-1-3-(1)-02「常勤教職員対象アンケート内容を示す資料」		
■ 在学生	資料1-1-3-(1)-03「学生アンケートの内容及び分析結果を示す資料」	p11-13,p35-59参照	
■ 卒業（修了）時の学生	資料1-1-3-(1)-04「学生会と将来構想・戦略会議との懇談会議事要旨」		
■ 卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生	資料1-1-3-(1)-05「寮生会と将来構想・戦略会議との懇談会議事要旨」		
■ 保護者	資料1-1-3-(1)-06「卒業・修了時アンケート結果を示す資料」		
■ 就職・進学先関係者	資料1-1-3-(1)-07「卒業生・修了生アンケート結果を示す資料」		
	資料1-1-3-(1)-08「卒業時アンケート、卒業生アンケート分析結果を示す資料」		
	資料1-1-3-(1)-09「企業アンケート結果を示す資料」		
	資料1-1-3-(1)-10「保護者懇談会実施要領」		
	資料1-1-3-(1)-11「保護者アンケート結果を示す資料」		
	資料1-1-3-(1)-12「H30運営協議会評価コメント」		
	資料1-1-3-(1)-13「令和元年度運営協議会【議事・概要】」		
	◇自己点検・評価結果報告書等の該当箇所		
	資料1-1-3-(1)-03「学生アンケートの内容及び分析結果を示す資料」		再掲
	資料1-1-2-(2)-02「自己点検・評価報告書」		再掲

<p>(2) 自己点検・評価の実施において、聴取された意見の評価結果及び他の様々な評価の結果等を踏まえて行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p>【在学生の意見聴取】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学習環境に関する評価 ■ 学生による授業評価 ■ 学生による教育・学習の達成度に関する評価（進級時等、卒業（修了）前の評価） ■ 学生による満足度評価（進級時等、卒業（修了）前の評価） ■ その他 <p>【卒業（修了）時の意見聴取】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 卒業（修了）時の学生による教育・学習の達成度に関する評価 □ 卒業（修了）時の学生による満足度評価 □ その他 <p>【卒業（修了）後の意見聴取】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 卒業（修了）後の学生による学習成果の効果に関する評価 □ 卒業（修了）後の就職・進学先等による学生の学習成果の効果に関する評価 □ その他 <p>【外部評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 外部有識者の検証 □ 教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等。） □ 設置計画履行状況調査 □ その他 	<p>◇各評価結果等を踏まえて自己点検・評価が行われていることを示す報告書等の該当箇所</p> <p>資料1-1-3-(2)-01 「学生アンケートの分析結果を示す資料」</p> <p>資料1-1-3-(2)-02 「Webシラバス研修会資料」</p> <p>資料1-1-3-(2)-03 「シラバス記載例」</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、当該評価の内容を記述するとともに、上記◇と同様に該当箇所を明示すること。</p> <p>資料1-1-3-(2)-04 「外部有識者による検証が行われていることを示す資料」</p> <p>資料1-1-3-(2)-05 「外部有識者による検証の結果を教育改善に役立てていることを示す資料」</p>	<p>在学生の意見聴取については教育改善FD委員会を中心として分析を行っている。具体例として、平成30年度の意見聴取においてシラバス、オフィスアワー、学習単位の各項目について、学生の理解度が十分でないことが明らかになった(資料赤枠内参照)。これを受け、シラバス研修会や教員会議を通じて、上記事項のシラバスへの記載及び、授業ガイダンスでの説明の充実を図った。</p> <p>「運営協議会報告書抜粋」p5の赤枠にあるように、外部有識者による検証として位置づけられる運営協議会において学科改組についての教員側の評価アンケートが行われていないことが指摘された。今年度教員向けアンケートを実施し、現状の教育体制について更に見直しを行っている。</p>
--	--	--

(2) 前回の機関別認証評価における評価結果について、「改善を要する点」として指摘された事項への対応をしているか。 ■ 対応している	◇対応状況がわかる資料		
	資料1-1-4-(2)-01 「鶴岡工業高等専門学校 アドミッションポリシー」	【基準4】 ○ 専攻科課程の入学選抜の基本方針は明文化されていない。また、準学士課程の入学選抜の基本方針は明文化されているものの、不明瞭な点がある。	
	資料1-1-4-(2)-02 「鶴岡工業高等専門学校専攻科 アドミッションポリシー」		
	資料1-1-3-(2)-02 「Webシラバス研修会資料」	【基準5】 ○ 学修単位科目について、全体的に自学自習時間が必要である旨の説明はされているものの、各授業科目のシラバスにおいては、事前学習、事後展開の具体的内容が明記されておらず、学生に伝わりにくい状況にある。	再掲
	資料1-1-3-(2)-03 「シラバス記載例」	シラバス作成に関する研修会を実施し、学修単位科目における事前、事後学習について明記するようにしている。	再掲
	資料1-1-4-(2)-03 「教務委員会議事録(抜粋)」	○ 専攻科課程の一部科目において、複数年度にわたり、同一の試験問題が出題されている。	
	資料1-1-4-(2)-04 「教務主事による周知メール本文」	各学科会議や、教員会議や教務主事からの連絡を適宜行い、同一問題が出題されない様に努めている。	
	資料1-1-4-(2)-05 「鶴岡工業高等専門学校 ディプロマポリシー」	【基準6】 ○ 専攻科課程において、「学習・教育到達目標の達成および評価方法と達成要件」を定め、これをもとに準学士課程での修得状況と併せて専攻科課程での達成状況を確認する方法としているものの、一部の学習・教育目標の達成要件については不明瞭な点がある。	
	資料1-1-4-(2)-06 「鶴岡工業高等専門学校 カリキュラムポリシー」		
	資料1-1-4-(2)-07 「鶴岡工業高等専門学校専攻科 ディプロマポリシー」		
	資料1-1-4-(2)-08 「鶴岡工業高等専門学校専攻科 カリキュラムポリシー」		
	資料1-1-3-(1)-07 「卒業生・修了生アンケート結果を示す資料」	○ 学生が行う学習達成度評価について、各授業の達成度の評価はなされているものの、学習・教育目標の各項目についての直接の達成度評価はなされていない。	再掲
	資料1-1-3-(1)-08 「卒業時アンケート、卒業生アンケート分析結果を示す資料」		再掲
	資料1-1-3-(1)-07 「卒業生・修了生アンケート結果を示す資料」	○ 卒業(修了)生や進路先等の関係者からの意見聴取では、学習・教育目標の達成状況に関連する内容として満足度を把握しているものの、学習・教育目標の各項目の達成状況を直接評価する意見聴取は行われていない。	再掲
資料1-1-3-(1)-08 「卒業時アンケート、卒業生アンケート分析結果を示す資料」	再掲		
資料1-1-3-(1)-09 「企業アンケート結果を示す資料」	再掲		

		○学習・教育目標の達成状況に関連した卒業(修了)生による満足度調査において、(E)の英語力については、低い満足度となっている。	
	資料1-1-4-(2)-09 「英語授業の取り組みを示す資料」	各学年での目標設定や、読み聞きのみならず書く・話すことを授業で積極的に実施し、それらの達成による「成功体験」を重視した取り組みを導入している。それらの成果について毎年点検を行い学校全体で成果や改善点を共有するようにしている。加えて、英語学習の動機づけの一環として、学生の短期海外留学を積極的に導入している。	
	資料1-1-4-(2)-10 「国際交流活動実績を示す資料」		
		【基準9】 ○教育の状況に関する自己点検・評価は実施されているものの、公表されている内容には、評価内容が十分には明記されていない。	
		学校ホームページにて公表を行っている。 https://www.tsuruoka-nct.ac.jp/annai/gaibu/	
	資料1-1-2-(2)-01 「自己点検・評価実施計画を示す資料」	【基準11】 ○学校の活動の総合的な状況に対する効果的な自己点検・評価の実施について、評価項目、評価基準の設定には、一部未整備な点があり、公表されている内容には、評価内容が十分には明記されていない。	再掲
	資料1-1-2-(2)-02 「自己点検・評価報告書」		再掲
(3)(2)以外で、実際に、自己点検・評価や第三者評価等の結果に基づいて改善に向けた取組を行っているか。 ■ 改善に向けた取組を行っている	◇自己点検・評価結果報告書や第三者評価等の該当箇所		
	資料1-1-3-(2)-01 「学生アンケートの分析結果を示す資料」	在学生の意見聴取については、教育改善FD委員会を中心として分析を行っている。具体例として、平成30年度の意見聴取においてシラバス、オフィスアワー、学習単位の各項目について、学生の理解度が十分でないことが明らかになった(「資料1-1-3-(1)-03」p64参照)。これを受け、シラバス研修会や教員会議を通じて、上記事項のシラバスへの記載及び、授業ガイダンスでの説明の充実を図った。	再掲
	資料1-1-3-(2)-02 「Webシラバス研修会資料」		再掲
	資料1-1-3-(2)-03 「シラバス記載例」		再掲
	◇評価結果を受けた改善の取組がわかる資料		
1-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。			

<p>評価の視点</p> <p>1-2 準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）（以下「三つの方針」という。）が学校の目的を踏まえて定められていること。</p>			
<p>（準学士課程）</p> <p>観点1-2-① 準学士課程の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ガイドラインとは、下記関係法令に示す平成28年3月31日に決定されたガイドラインのことをいう。 ○ 「卒業の認定に関する方針」（ディプロマ・ポリシー）については、ガイドラインの3ページ上段の基本的な考え方や、同5ページ下半分の三つのポリシー相互の関係、同6ページのディプロマ・ポリシーについて等、ガイドラインの内容を参照の上、適切に定められていることを分析すること。 ○ 教育する立場からみた教えるべき内容ではなく、教育を受ける側（=学習者=学生）の立場に立って「何を身に付け、何ができるようになったか」という学習の成果が明確にわかる、具体的な内容となっていることを分析すること。 ○ 学校教育法施行規則第172条の2第1項第1号の規定により学校の目的を、高等専門学校設置基準第3条の規定により学科ごとの目的を、それぞれ定めることが義務付けられており（本評価書のII目的に記載するもの。）、それぞれの目的と卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、内容的に齟齬がないなど整合性を有していることを分析すること。 ○ 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の策定の単位は、準学士課程全体で一つのポリシーを定めることや、学科ごとに定めることが考えられるところであり、学校・学科の目的や教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）との整合性を踏まえて、学校ごとに策定単位を明確にすることが求められる。 			
<p>関係法令（法）第117条（施）第165条の2（設）第17条第3～6項、第17条の2、第17条の3、第18条、第19条、第20条</p> <p>「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）</p>			
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■ 満たしていると判断する</p>			
	自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考
	<p>(1) ガイドライン等を踏まえ、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p>■ 準学士課程全体として定めている</p> <p>□ 学科ごとに定めている</p> <p>□ その他</p>	<p>◇策定した卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>資料1-2-1-(1)-01 「本校の基本教育目標」</p> <p>資料1-1-4-(2)-05 「鶴岡工業高等専門学校 ディプロマポリシー」</p>	<p>準学士課程のディプロマ・ポリシーでは、本校の「基本教育目標」を踏まえて、技術者に必要な資質や能力を具体化し、この資質や能力を身に付けて所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定するよう定めている。</p>
	<p>(2) 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、「何ができるようになるか」に力点を置いたものであり、かつ準学士課程全体、各学科の目的（本評価書IIに記載したもの。）と整合性を有しているか。</p> <p>■ 整合性を有している</p>	<p>資料1-1-2-(2)-04 「【議事要旨】自己点検・評価委員会2019年度2」</p>	<p>ディプロマポリシーの内容及び(2)項目の整合性などについて、適宜見直しを行っている。青枠内参照。</p>
	<p>(3)卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の中で、学生が卒業時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。</p> <p>■ 示している</p>	<p>資料1-1-2-(2)-04 「【議事要旨】自己点検・評価委員会2019年度2」</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。</p>	<p>ディプロマポリシーの内容及び(3)目の整合性などについて、適宜見直しを行っている。青枠内参照。</p>

観点1-2-② 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

【留意点】

- ガイドラインとは、下記関係法令に示す平成28年3月31日に決定されたガイドラインのことをいう。
- 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）については、ガイドラインの3ページ上段の基本的な考え方や、同5ページ下半分の三つのポリシー相互の関係、同6ページカリキュラム・ポリシーについて等、ガイドラインの内容を参照の上、適切に定められていることを分析すること。
- 特に、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は学校教育法施行規則第165条の2第2項において、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を有して定めることが求められていることから、両ポリシーの内容が整合的であることを分析すること。
- 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の策定の単位は、準学士課程全体又は学科ごとに定めることが想定される場所であり、学校・学科の目的や卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を踏まえて、学校ごとに策定単位を明確にすることが求められる。（卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と策定単位が一致していることが原則であると想定されるが、各高等専門学校の判断で策定単位を一致させていないことも想定されることから、整合性を分析する際には、形式的に留まらず内容的整合性を分析することが求められる。）
- （3）の選択肢のうち、「その他」以外のものについては、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に必ず含むものとして想定している。

関係法令（施）第165条の2（設）第15条、第16条、第17条（第7項）、第17条の2

「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）

観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。）	◇策定した教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）		
■ 準学士課程全体として定めている		準学士課程のカリキュラム・ポリシーでは、ディプロマ・ポリシーで定めた技術者に必要な資質や能力それぞれに対して、人文社会系の素養を身に付ける単位、理工系基礎学力を身に付ける単位、各専門科目の学力を身に付ける必修科目を主軸にバランスよく設定しおり、卒業時に全てを身に付けられるようにカリキュラムを設計している。	
■ 学科ごとに定めている	資料1-1-4-(2)-06 「鶴岡工業高等専門学校 カリキュラムポリシー」	CPとDPの対応は付図参照。	再掲
□ その他			
(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を有しているか。	資料1-1-4-(2)-06 「鶴岡工業高等専門学校 カリキュラムポリシー」	CPとDPの対応は付図参照。	再掲
■ 整合性を有している	◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。		

(3)教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、どのような内容を含んでいるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ☐ どのような教育課程を編成するかを示している ☐ どのような教育内容・方法を実施するかを示している ☐ 学習成果をどのように評価するかを示している ☐ その他	資料1-1-4-(2)-06 「鶴岡工業高等専門学校 カリキュラムポリシー」	カリキュラムポリシーの内容について(3)項目を踏まえて適宜見直しを行っている。	再掲
	資料1-1-2-(2)-04 「【議事要旨】自己点検・評価委員会2019年度2」	青枠内参照。	再掲
	資料1-1-4-(2)-06 「鶴岡工業高等専門学校 カリキュラムポリシー」	カリキュラムポリシーの内容について(3)項目を踏まえて適宜見直しを行っている。	再掲
	資料1-1-2-(2)-04 「【議事要旨】自己点検・評価委員会2019年度2」	青枠内参照。	再掲
	資料1-1-4-(2)-06 「鶴岡工業高等専門学校 カリキュラムポリシー」	カリキュラムポリシーの内容について(3)項目を踏まえて適宜見直しを行っている。	再掲
	資料1-1-2-(2)-04 「【議事要旨】自己点検・評価委員会2019年度2」	青枠内参照。	再掲
	◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。		

観点1-2-3 準学士課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

【留意点】

- ガイドラインとは、下記関係法令に示す平成28年3月31日に決定されたガイドラインのことをいう。
- 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）については、ガイドラインの3ページ上段の基本的な考え方や、同5ページ下半分の三つのポリシー相互の関係、同6ページのアドミッション・ポリシーについて等、ガイドラインの内容を参照の上、適切に定められていることを分析すること。
- 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）の策定の単位は、準学士課程全体で1つのポリシーを定めることが考えられるが、学科ごとに定めることも可能である。
- 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」と「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）」の両方を定めているかを分析すること。なお、受け入れる学生に求める学習成果として、「学力の3要素」に沿った成果の内容が明示されていることを分析すること。
- 「学力の3要素」とは、1知識・技能、2思考力・判断力・表現力等の能力、3主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度のことである。

関係法令（法）第57条、第118条（施）第165条の2
 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）
 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1)ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ☐ 準学士課程全体として定めている ☐ 学科ごとに定めている ☐ その他	◇策定した入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）		
	資料1-1-4-(2)-01 「鶴岡工業高等専門学校 アドミッションポリシー」	準学士課程のアドミッション・ポリシーでは、本校の「教育目的」に沿った技術者になれる素質のある生徒を受け入れるために、技術や科学に関心を持ち、総合的に学力が高く、かつ、ものづくりに興味を持っている人を求めている旨を明示すると共に、そうした生徒像であることの確認を入学試験や調査書で評価することも定めている。	再掲

(2)入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）は、学校の目的や学科の目的（本評価書IIに記載したもの。）、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて策定しているか。 ■ 目的・方針等を踏まえて策定している	資料1-1-4-(2)-01 「鶴岡工業高等専門学校 アドミッションポリシー」	アドミッションポリシーの内容及び、3つのポリシーの整合性について適宜点検を行っている。青枠内参照の事。	再掲
	資料1-1-2-(2)-04 「【議事要旨】自己点検・評価委員会2019年度2」		再掲
(3)入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」を明示しているか。 ■ 明示している	資料1-1-4-(2)-01 「鶴岡工業高等専門学校 アドミッションポリシー」	青枠内参照	再掲
	資料1-1-4-(2)-01 「鶴岡工業高等専門学校 アドミッションポリシー」	青枠内参照	再掲
(4)入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）」を明示しているか。 ■ 明示している	資料1-1-4-(2)-01 「鶴岡工業高等専門学校 アドミッションポリシー」	青枠内参照	再掲
	資料1-2-3-(5)-01 「学力の3要素とAPに関する検討状況を示す資料」	学力の3要素とアドミッションポリシーとの対応について適宜点検を行い、内容の確認を行っている。	
	◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。		

<p>(専攻科課程)</p> <p>観点1-2-④ 専攻科課程の修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。</p> <p>【留意点】</p> <p>○ 観点1-2-①の留意点に準ずるものとする。</p> <p>関係法令 (法)第119条第2項 (施)第165条の2 (設)第17条第3~6項、第17条の2、第17条の3、第18条、第19条、第20条</p> <p>「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン(平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会)</p> <p>観点の自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■ 満たしていると判断する</p>			
自己点検・評価結果欄(該当する口欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) ガイドライン等を踏まえ、修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)を定めているか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p>■ 専攻科課程全体として定めている</p> <p>□ 専攻ごとに定めている</p> <p>□ その他</p>	◇策定した修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)がわかる資料		
	資料1-2-1-(1)-01「本校の基本教育目標」	専攻科課程のディプロマ・ポリシーでは、本校の「基本教育目標」を踏まえて、技術者に必要な資質や能力を具体化し、この資質や能力を身に付けて所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定するよう定めている。	再掲
	資料1-1-4-(2)-07「鶴岡工業高等専門学校専攻科 ディプロマポリシー」		再掲
	資料1-1-2-(2)-04「【議事要旨】自己点検・評価委員会2019年度2」	ディプロマポリシーの内容及び(2)項目の整合性などについて、適宜見直しを行っている。青枠内参照の事。	
<p>(2) 修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)が、「何ができるようになるか」に力点を置き、専攻科課程全体、各専攻の目的(本評価書IIに記載したものと整合性を有しているか。</p> <p>■ 整合性を有している</p>			
<p>(3) 修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)の中で、学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか。</p> <p>■ 示している</p>	◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。		

観点1-2-⑤ 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

【留意点】
○ 観点1-2-②の留意点に準ずるものとする。

関係法令（施）第165条の2（設）第15条、第16条、第17条（第7項）、第17条の2
「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）

観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。） ☒ 専攻科課程全体として定めている ☐ 専攻ごとに定めている ☐ その他	◇策定した教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）がわかる資料		
	資料1-1-4-(2)-08 「鶴岡工業高等専門学校専攻科 カリキュラムポリシー」	専攻科課程のカリキュラム・ポリシーでは、ディプロマ・ポリシーで定めた技術者に必要な資質や能力に対して、人文社会系の素養を身に付ける単位、理工系基礎学力を身に付ける単位、各専攻の専門科目の学力を身に付ける単位を配置し、修得要件をバランスよく設定しており、修了時に全てを身に付けられるようにカリキュラムを設計している。	再掲
	資料1-2-5-(2)-01 「専攻科教育系統図」		
	資料1-1-2-(2)-04 「【議事要旨】自己点検・評価委員会2019年度2」	カリキュラムポリシーの内容及び、ディプロマポリシーとの整合性などについて適宜見直しを行っている。青枠内参照の事。	
(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を有しているか。 ☒ 整合性を有している	◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。		
(3) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、どのような内容を含んでいるか。（該当する選択肢にチェック■する。） ☒ どのような教育課程を編成するかを示している ☒ どのような教育内容・方法を実施するかを示している ☒ 学習成果をどのように評価するかを示している ☐ その他	資料1-1-4-(2)-08 「鶴岡工業高等専門学校専攻科 カリキュラムポリシー」		再掲
	資料1-1-4-(2)-08 「鶴岡工業高等専門学校専攻科 カリキュラムポリシー」		再掲
	資料1-1-4-(2)-08 「鶴岡工業高等専門学校専攻科 カリキュラムポリシー」		再掲
	◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。		

観点1-2-⑥ 専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。			
<p>【留意点】</p> <p>○ 観点1-2-③の留意点に準ずるものとする。</p> <p>関係法令（法）第119条第2項(施)第165条の2、第177条</p> <p>「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン（平成28年3月31日中央教育審議会大学分科会大学教育部会）</p> <p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■ 満たしていると判断する</p>			
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を定めているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <p>■ 専攻科課程全体として定めている</p> <p>■ 専攻ごとに定めている</p> <p>□ その他</p>	◇策定した入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）		
	資料1-1-4-(2)-01「鶴岡工業高等専門学校 アドミッションポリシー」	専攻科課程のアドミッション・ポリシーでは、本校の「基本教育目標」に沿った技術者になれる素質のある学生を受け入れるために、必要な学習履歴があると共に、そうした学生像であることの確認を入学試験や調査書で評価することも定めている。	再掲
	資料1-1-2-(2)-04【【議事要旨】自己点検・評価委員会2019年度2】	アドミッションポリシーの内容及び、3つのポリシーの整合性について適宜点検を行っている。青枠内参照の事。	
	資料1-2-3-(5)-01「学力の3要素とAPに関する検討状況を示す資料」	学力の3要素とアドミッションポリシーとの対応について適宜点検を行い、内容の確認を行っている。	
<p>(2) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）は、学校の目的や専攻科課程の目的（本評価書Ⅱに記載したもの）、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて策定しているか。</p> <p>■ 目的・方針等を踏まえて策定している</p>			
<p>(3) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」を明示しているか。</p> <p>■ 明示している</p>			
<p>(4) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）」を明示しているか。</p> <p>■ 明示している</p>			
<p>(5) 受け入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれているか。</p> <p>■ 含まれている</p>	◆その他の項目をチェックした場合は、策定単位を具体的に記述する。		

1-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

評価の視点
1-3 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていること。

観点1-3-① 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。

【留意点】
○ (2)の点検の実施については、改組転換といった教育組織の見直しや教育課程の充実（外国語科目の充実や、実務教育科目の充実等。）により、三つの方針の全体若しくはいずれかの見直しを行っていることについて、分析すること。

関係法令 (法)第109条 (施)第166条 (設)第2条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。
■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検する体制となっているか。 ■ なっている	◇点検を行う体制がわかる資料（関連規定等、三つの方針の内容を点検し、必要に応じて見直すことについて定めているもの。）		
	資料1-1-1-(1)-01 「自己点検評価の基本方針」	自己点検・評価委員会が、本校の定める自己点検・評価項目に基づき、本校の三つの方針の点検及び見直しの年度計画を策定し、関連委員会と連携して実施している。	再掲
	資料1-1-1-(3)-01 「自己点検・評価表」		再掲
	資料1-1-2-(2)-01 「自己点検・評価実施計画を示す資料」		再掲
	資料1-1-2-(2)-03 「議事要旨」自己点検・評価委員会2019年度1」		再掲
(2) 学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等を把握し、適宜点検しているか。 ■ 点検して、改定している	◇点検の実情に関する資料（実績）		
	資料1-1-2-(1)-04 「PDCAサイクル図」	まず、教育改善FD委員会、教育点検委員会、教育改善委員会で本校の教育目的と学習教育目標が適切であるかを確認し、続いて、自己点検・評価委員会で三つの方針を点検し、全教員および事務部各課責任者が出席する教員会議で周知している。	再掲
	資料1-1-2-(2)-01 「自己点検・評価実施計画を示す資料」		再掲
	資料1-1-2-(2)-04 「【議事要旨】自己点検・評価委員会2019年度2」	青枠内参照	再掲

1-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。			
基準 1			
優れた点			
改善を要する点			